

キャラクター名
アマド・ピサロ

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル		ワークス	研究者	カヴァー	UGNエージェント
	パロール					
オプション			年齢	38	性別	男性
覚醒	探求	衝動	解放	初期侵食率	38	%
出自	資産家	経験	古強者	邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	2	1	0			3	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	6	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	6		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	2r	12	2		
クリスタル+Ef5.6						32+3d 37+4d 42+5d (ガード値) 40+9d 45+10d 45+11d (ダメージ減少)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
UGNボディーアーマー		8			

合計装甲: 8 合計回避: 0

所持品	
エボルフラクション	
要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス:遺産継承者P		N		
人類	P 尽力	N 偏愛		
友人<剛>ロイス タイタス	P 誠意	N 偏愛		
遺産<ラヴィ>	P 執着	N 偏愛		
トム	P 有為	N 偏愛		
アーノルド	P 感服	N 偏愛		
レイ タイタス	P 誠意	N 偏愛		

最大財産P: 16 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
崩れずの群	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果: カバーリング								
命のカーテン	3	4	オート	至近	自身	自動		
効果: 10m先までカバーリング								
守護者の巨壁	1	6	オート	視界	効果	自動	リミット	
効果: 対象を単体に シナリオ1回								
孤独の魔眼	2	4	オート	至近	効果	自動		
効果: 範囲を単体に シナリオ1v回								
グラビティガード	3	3	オート	至近	自身	自動		
効果: ガード+LvD								
氷盾	4	2	オート	至近	自身	自動		
効果: ガード値+LvD5								
魔王の外套	3	5	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果: 受ける予定のダメージを常にLv*5+5 シーン中								
拒絶領域	3	基+6	常時	至近	自身	自動		
効果: HPダメージ-Lv*5。暴走中のみ。								
異形の加護	1	4	オート	至近	自身	自動		
効果: (デモンズウェブ併用)D-3d								
デモンズウェブ	5	2	オート	10m	単体	自動	80	
効果: ダメージ-Lv+1								
偏差把握	★							
効果:								
異形の歩み	★							
効果:								
効果:								

白いコートと奇妙なスーツで身を隠す長身の男性。基本的に礼儀正しく紳士的に立ち振る舞う。他組織の人間に対しては「人類の守護者(ユニバーサルガーディアン)」とだけ名乗る。UGN内では、皮肉を込めて「キャプテン」と呼ばれる。その振る舞いは開拓者としてのそれではなく、侵略者(コンキスタドル)のそれであると。

UGN評議会の命を受けて独自に動く本部エージェント。道徳感、倫理観が破綻しているのでそこそこ問題を起す。他のUGNエージェントにとっては諷いの種。本人は他者との間に絶望的なまでの溝があることに気付いていない。

白いコートの下に隠している為周囲からは分からないが、腕が3本ある。自身が生まれながらに持った腕と、コートの下に隠したイフリースの腕……彼の親友であった、或る人物の腕をそのまま、自分に移植している。心から敬意を示し、無二の友と定めた男。彼の力を使い、彼の愛用したコートに身を纏い、彼の姿を探し続ける。彼自身は人類をこよなく愛する、発展を願う善人である。多くの功績を挙げ、実績があるため、またその行動理念が善性のそれであるために、中枢評議会という大きな権力を背後に置いて活動が行えている。友人の腕に宿された遺産の無許可での移植、また、他エージェント等の反対を押し切ったエボルフラクションの、自身の身に埋め込む形での行使。多くの亀裂、不和を振り撒きながらも任務を熟し続けている。